

アートスペース業界におけるアーティストの成長メカニズム

経済・ビジネス研究科 経済学専攻
地域づくり分野 博士前期課程
2026年3月修了

野澤 みや

主査 横井 克典 副査 宗像 優 行平 真也

研究の背景

日本のアート市場と芸術家人口は成長傾向にあるが、アーティストが生計を立てられるまでに成長することは非常に難しいとされている。そうした現状がありながらも、駆け出しのアーティスト(アーティストの卵)が商業的に成立するアーティストへと育成される過程、つまり成長メカニズムについては十分に明らかにされてこなかった。通常、アーティストは、複数の組織からの支援を受けて、社会的・商業的に自立していく。したがって、アーティストが成長していくプロセスにおいて、いかなる組織がどのような関係性のもとで関与しているのかを解明しなければならない。

研究方法・目的

本研究では、アートスペース業界におけるアーティストの成長メカニズムを、アーティストに関与する多様な組織(コマーシャルギャラリー、オルタナティブ・スペース)とその関係性の分析を通じて解明した。

多様な組織からなるアートスペース業界を正確に捉えるため、本研究では、①各組織がどのような目的や価値観をもとに行動・存立しているのか(制度ロジック)、②①の影響が作品の調達や展覧会活動といった具体的なビジネスの諸活動にいかに関与するのか(ビジネスシステム)、③各組織が業界全体においていかに関係しているのか、という3つのレイヤーによる分析を行った。分析対象としては、福岡県に立地する5つのアート関連組織を取り上げた。

研究概要

各レイヤーの分析から明らかになったのは次の諸点である。

第1に、制度ロジックを用いた分析から、アートスペース業界には、質の異なる大きく2つの組織群が存在することが明らかになった。すなわち、アーティストの卵を育成する役割を担う「育む機能組織群」、そこで育てられたアーティストを社会的・商業的なアーティストへと導く「展開する組織群」である。

第2に、ビジネスシステムの分析により、これら2つの組織群は仲介者を通じてゆるやかに結びついていることが判明した。ただし、仲介者は両組織群の橋渡しを意図しているわけではなく、善意によって仲介行為を行っていることが特徴的であった。

第3に、アーティストは2つの組織群をまたぐことで成長していくが、両組織群はそれぞれの強い意図のもとで直接的に繋がっているわけではないことを明らかにした。両組織群の関係性は、善意の仲介者による媒介から生まれていた。こうした異なる性質の組織群が共存し、それぞれが独自の役割を果たすことによって生まれるダイナミズムこそが、アーティストの成長と飛躍を可能にしていた。

成果・まとめ

上図は、本研究で明らかにしたアートスペース業界におけるアーティストの成長メカニズムのモデルである。アートスペース業界には、アーティストを育む機能を持つ組織群と、その後の社会的・商業的な展開を担う組織群という性質の異なる2つの組織群が存在する。本研究は、アーティストがこれらの組織群を仲介者を介して移行する過程で成長していくこと、さらには展開する組織群で活躍するアーティストの存在が、新たなアーティストの卵の誕生に寄与するという循環が業界内で形成されていることを明らかにした点に特徴がある。

本研究で示したアーティストの成長メカニズムは、アートスペース業界における各組織の役割や補完的な関係性を理解するうえで有用であり、将来的な文化政策や支援制度の検討にも貢献するものと考えられる。

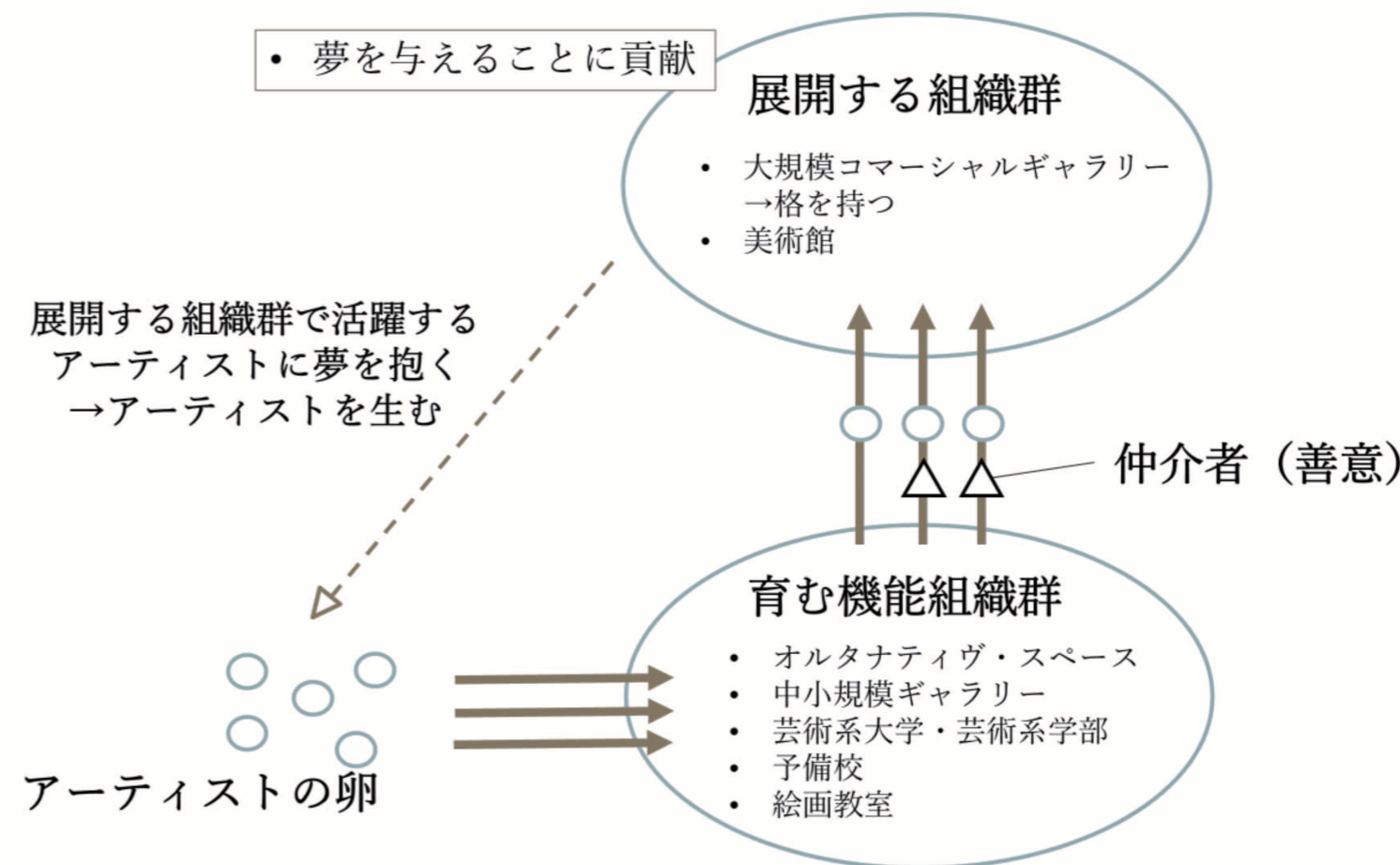


指導教員コメント

本研究は、アーティストに関わる多様な組織に着目し、それらの実態や関係性を丁寧に分析することで、アートスペース業界におけるアーティストの成長メカニズムを解明したものである。業界に存在する異質な組織群のつながり方と、それによって形成されるアーティストの誕生から成長・発展に至る循環を明確に示した点が高く評価できる。今後は、対象とするアート関連組織や地域をさらにひろげ、研究をよりいっそう発展させることを期待したい。

横井 克典

図表1 アートスペース業界におけるアーティストの成長メカニズム



出所: 本稿の事例研究により明らかとなった各組織の実態を元に、筆者が作成した。